



小児科 鈴木 信子

名古屋大学医学部 昭和45年3月卒業
日本小児科学会認定専門医

産婦人科 鈴木 正利

名古屋大学医学部 昭和45年3月卒業
前愛知医大産婦人科助教授
日本産婦人科学会認定専門医

WAKABADAI CLINIC

(PEDIATRICS · OBSTETRICS & GYNECOLOGY)



名古屋市名東区若葉台502
(若葉台ビル1F)

☎(052)777-2888

〈一般通話用電話〉

☎186-052-777-2826(代)

〈コンピューター予約専用電話・4回線〉

- ★日曜・休日の前後日(土・月)は平日よりも混雑致しますので慢性疾患の方はお避け下さい。
- ★直接来院の枠は1時間当たり2名分しかありませんので、予約をとってご来院が確実です。

◆診療時間

曜日	月	火	水	木	金	土
9:10~13:00	○	○	○	○	○	○
17:30~19:00	○	○	/	○	○	△

△土曜日午後14:30~16:00

◆休診

水曜日午後・日曜日・祝日

休祭日は都合が付く限り、午前は11時、夕方は午後6時頃に臨時診察をお受けいたします。ただし、医師会・学会・研修会に参加したりする事も多いため、午前だけとか夕方だけになることもあります。当日に電話(052-777-2888)をして頂いて留守番電話の内容を確認して下さい。



小児科
産婦人科

医療法人 若葉台クリニック

小児科 鈴木 信子
産婦人科 鈴木 正利

<http://www.wakabadai-clinic.or.jp/>

患者の皆様へ

当クリニックは、この地区においてよりよい小児科と産婦人科の医療を提供し、子供と女性の健康を守ることを基本理念として運営されています。

小児科は、病気の子供さんの治療はもちろんのこと、**健康な乳幼児の健診、育児相談、栄養相談を水曜日の午後**(事前予約制、病児はご遠慮下さい)に行っていますので、ご希望の方は早目に予約して下さい(現在3ヶ月待ち)。

産婦人科は、無床のため分娩は扱いませんが、妊娠の管理、不妊症、排卵障害、更年期障害、子宮癌・卵巣癌・乳癌の検診などトータルな意味で全女性の相談相手としての医療を目指しています。(なお、人工妊娠中絶・非配偶子間人工授精・試験管ベビーなどは信条の面から施行していません)

子育てを経験した女医の子育ての中に根付いた身近で信頼される小児科と、長年の大学病院勤務で培った知識と経験に基づいた信頼される産婦人科でありたいと思っておりますが、お気付きの点があれば、入口の**投書箱**にご意見を書いて入れて下さい。参考資料にさせていただきます。

当院の診察は予約制です

この自動予約システム「Drうる君」は、当院が平成3年10月に日本で最初にNTTグループと共同開発しました。その後、多くの会社(薬品卸会社など)が同様なシステムを真似て市販するに至りましたが、オリジナルはこの「Drうる君」にあるとされ、多くの雑誌で紹介されました。詳しくは当院のインターネットのホームページをご覧ください。

これは待合室での患者さん同士の相互感染を防ぐ意味と待ち時間をなるべく少なくする目的があります。緊急やプッシュ電話のない方、初診の方のために直接来院の空枠も残していますが、電話予約をして頂いた方が確実です。

★**予約時間は、あくまで予定時間です。**採血/点滴/レントゲン撮影などがありますと、遅れることがありますが、ご容赦下さい。

当院は医薬分業です

医師の発行した処方箋を最寄りの調剤薬局に持参して薬をもらうシステムです。医師と薬剤師の協力で、より安全な服薬ができます。

育児書、児童心理書、ビデオなども皆様のご参考と思い設置し、貸し出しもしていますので、ご利用ください。



当クリニックはささやかな無床診療所でございますので、精密検査や入院治療の必要のあると思われる子供さんは、私達の出身大学の名古屋大学病院をはじめ、近くの愛知医大病院、第二日赤病院、陶生病院、東市民病院などの公的病院にご紹介申し上げますようにしています。



▼ 受付 小児科診察風景 ▲

▼ 待合室 産婦人科診察風景 ▲



薬の投与方法について

最近のママの中には、薬の飲ませ方のわからない方が増えていきます。このパンフレットをお読みになってご参考して下さい。

薬をはじめからミルクや果汁と混ぜて飲ませると、飲みきれずに吐く原因になります。いやがって薬を飲まない子供のママに聞くと、たいていこの方法が多く、しかも、いやがるのに無理に飲ませると吐くことが多いようです。特に下痢止めの薬は苦くて溶かすと飲んでもくれませんので、溶かさなさいで下さい。

当院では、**変性しやすいく水薬やシロップ薬よりも、なるべく調合しやすく日持ちのする粉薬やドライシロップ**または**坐薬**を処方しています。

○乳児の場合

粉薬は水で半練りしてから、ママの指先につけて乳児のほおの奥の内側にぬり、その後で母乳かミルクを与えて下さい。(奥のほうが感覚がぶく、舌先は逆に敏感なためです)

○幼児の場合

いやな薬を飲ませるコツは、かならず子供に「病気をなおすための薬ですよ」と優しく語りかけて、納得させながら飲ませることです。やはり、子供の納得とママの根気で薬を上手に飲ませることです。無理やりはダメです。いやがる時は、1回の量を減らして2回か3回に分けて飲ませて下さい。たくさん水分を与えずと、吐く原因になります。上手に飲めるときは、ほめた後でお菓子などを与えるのも方法です。

○坐薬(さしぐすり)の場合

肛門からの坐薬をもらったときは、冷蔵庫に保存しておいて下さい。抗生物質の坐薬は6~8時間毎に挿入して下さい。解熱剤の坐薬は、38.5度以上になったときには使用して下さい。(追加投与は6時間以上空けて下さい)子供をあお向けにして、足を上へ持ち上げて、泣かせる前に手早く挿入するのがコツです。坐薬が飛び出さないように、しばらく肛門を押さえておくことも大切です。また、子供の粘膜を傷つけないために親のツメは短く手入れしておいて下さい。1/2本とか2/3本の指示があれば、切り落として使用して下さい。指示が無い時は1本そのままを使用します。

飲ませ方・使い方レッスン

♡坐薬

解熱剤などの坐薬を半分に分けて使うときは、包丁やナイフで斜めに切り込みを入れます。そして肛門に入れるのは、ロケット型の坐薬の頭のほうだけ。切り口のところが残りの半分は、肛門を傷つけることがありますので、捨てたほうが賢明です。



♡塗り薬

●形状によって効果のある症状は違います●

塗り薬は軟膏のほかいろいろタイプがあります。たとえば、軟膏は基剤(のぼす成分)が油脂。水分が含まれていないので、じゅくじゅくしている患部に適しています。また、クリームは、水と油脂が入っているのでカサカサ部分に効果を発揮します。ローションは水分のほか、アルコールも含むので、塗るとさっぱり感があります。このほか、病院などで調剤されるリメント剤の一つに「カチリ」といわれる塗り薬があります。といった白玉粉のような感じで、塗ると乾いて白く残り、皮膚を保護します。水ぼうそうの治療に使われます。また、封をあけたチューブ入りの軟膏を使うときは、2mmぐらいをしばらく出し、ぬぐいとってから使います。



液状の薬はコットンにとってが塗り薬に。



♡ローションタイプ

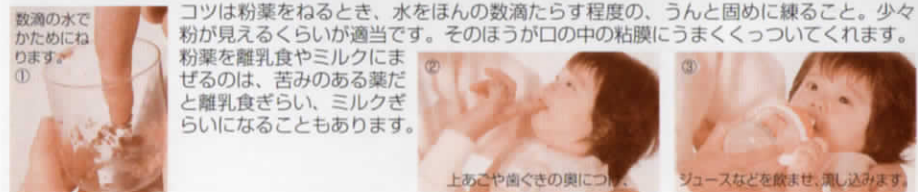
●コットンなどにとって●

ローションタイプの塗り薬は容器ごとよく振り、コットンなどにとってから肌へ。容器の口に手がふれると不潔ですし、余分な薬が出るのを防ぎます。

♡粉薬

●数滴の水でねり、上あごにつけたあと、飲み物を与えます●

粉末にはバナナやいちごの味がついているもの、苦くて飲ませづらいものなど、いろいろあります。シロップにくらべて保存性は良好です。飲ませ方は、粉薬を水でねり、それを味覚の鈍感な上あごの粘膜や口の奥の歯ぐきにつけ、そのあとミルクやジュース、お茶などを飲ませます。甘い飲み物のほうが、よく飲むようです。コツは粉薬をねるとき、水をほんの数滴たらず程度の、うんと固めに練ること。少々粉が見えるくらいが適当です。そのほうが口の中の粘膜にうまくくっついてくれます。粉薬を離乳食やミルクにまぜるのは、苦みのある薬だと離乳食がらい、ミルクがらいになることもあります。



上あごや歯ぐきの奥につ。

ジュースなどを飲ませ、押し込みます。